何でも読もう会

書 物 名	『神去なあなあ日常』	開催日	出席者
作　者	三浦しをん	2024.9.16	４名

・作者の父 三浦佑之の出身地である三重県一志郡美杉村（現在は津市美杉町）がモデルのようで、三浦しをん自身も子供の頃に訪ねたかもしれない。
・主人公平野勇気は横浜育ちで、林業には知識も興味もなかったが、高校卒業後、半ば脅されるような状況で携帯の電波も届かない田舎で、林業の盛んな神去村に送り込まれた。
・その神去村の生活を通じて、自然との共生や村の伝統的な生活習慣、そして人々の温かさに触れ、次第に林業の魅力に引き込まれてゆく。

＜主な意見＞
・自然描写が巧みで、臨場感たっぷりに伝わって来た。
・登場人物が個性的で魅力的。特に繁ばあさん、山仕事の天才ヨキ、さらに飼い犬ノコ。
・林業を題材にした仕事小説家と思いきや、愛あり、ファンタジー要素もありで、三浦しをんが若い人にはたまらない作家だと判った。
・印象に残った言葉
「日本の森林で、人間の手が入っとらん場所なんかないで。木を切り、木を使い、木を植えつづけて、ちゃんと山を手入れする。それが大事なんや。俺たちの仕事や。」P